



海外派遣員レポート開始



-第1弾 アメリカ・アイオワの現況-

貿易事業者の皆様へ情報をお届けしている山梨協ニュースですが、今号から不定期に山梨県から海外へ派遣されている職員のレポートをお送りします。山梨県ではアメリカのニューヨーク市、アイオワ州、中国四川省、韓国忠清北道に1名ずつ職員を派遣しています。行き先により立場は違いますが、1～2年という短期間に仕事と生活の両面から気づいたことなどをレポートしてもらおう予定です。

今回のレポートはアメリカ・アイオワ州からです。



マディソン郡の橋と筆者

山梨県企画部県民室国際課 依田真司

昨年8月末から姉妹州県の駐在員としてアイオワ州に赴任しています。山梨県とアイオワ州は40年以上の姉妹交流の歴史を持っています。任期2年の駐在員も私で8代目。駐在員の仕事は様々な国際交流事業の連絡・調整がメインになっていて、仕事の相手は国際交流関係のNPOやボランティアの方々がほとんどです。

赴任して5ヶ月がたちました。あっという間に月日が過ぎていきます。妻と二人で生活していますので気ままな外国生活と言えるかもしれません。渡米前、不安を抱いていた妻もこちらの方々に親切にいただき、今は、それも解消されたようです。

農業王国アイオワは特にとうもろこし栽培と養豚が有名で、アメリカの中でもかなりの田舎として位置づけられているようです。「フィールド・オブ・ドリームス」という映画をご存じですか。どこまでも続くとうもろこし畑が印象的な映画ですが、ここアイオワで撮影されました。牧歌的な風土の土地柄で、人々もおおらか。親切な笑顔が印象的です。

米国の主要輸出農産物の全てにおいて日本は重要な輸入国です。アイオワの農産物もかなりの量が日本に送られています。先日、新聞に日本との新しいビジネスに関する記事が掲載されていました。州東部ミシシッピ川沿いの地方で、高い澱粉濃度のとうもろこしの製造に約60の農家が取り組んでいます。この高品質とうもろこしの行き先は、日本のビール会社。厳しい条件のもと生産され、輸出されます。停滞する経済の活性化策として州知事はバイオテクノロジー産業の育成を政策の一つに掲げていますが、これもアイオワらしい経済対策と言えるでしょう。

何を持ってアメリカらしいと言うかは定かではありませんが、おそらく私を取り巻く環境はフレンドリーで何事にもおおらかな良い意味でアメリカらしいものであると思います。



州都デモイン



どこまでも続くとうもろこし畑